



SMOKE-FREE KIDS

日本財団 会長 笹川陽平 様

2011年7月31日

兵庫県タバコフリー協会 会長 菌 潤
NPO 法人禁煙推進の会えひめ 会長 豊田茂樹
Smoke-Free Kids 主宰 Jeffrey Wigand

ご回答に対する御礼とコメント

本年6月27日付けの要望書に対して、同年7月8日付けでご回答をいただき、まことに有難うございました。本返書が大変遅くなり、申し訳ありません。また、兵庫県タバコフリー協会HP（名称は、前身の「兵庫県喫煙問題研究会」のままで、申し訳ありません）上に、ご回答を掲載いたしましたのでご確認ください。

さて、ご回答につきまして、以下の通りコメントさせていただきますので、宜しく願い申し上げます。なお、このコメントに対するご回答は、必要ございませんが、今後の貴財団の活動方針の参考にして頂ければ幸いです。有難うございました。

1. 被災地へのタバコ配布について

貴財団に寄贈されたタバコ100カートンを、被災地救援活動中の自衛隊に届けられ、タバコ入手困難の喫煙者隊員の癒し・気分転換・安らぎに使っていただいたとのこと。喫煙習慣は、ニコチン依存症という病気であり、喫煙は、ニコチン離脱症状からの一時的な緩和に過ぎず、1～2時間後には再び離脱症状に苦しめられ喫煙するという典型的な薬物依存症であることは、医学的にも証明され、常識となっています。被災地でのタバコ入手困難は、この悪循環を断つ絶好の機会であり、実際に被災地支援に行かれた喫煙者ボランティアが、被災地で禁煙を開始された報告もあります。タバコ入手困難喫煙者にタバコを差し入れることは、一見人道的行為のようですが、実は折角の薬物依存症克服の機会を奪うことであり、貴財団の博愛主義にも反すると思います。どうか、今後はタバコの差し入れを止めていただきますようお願い申し上げます。

2. フィリップモリス社との共同プロジェクトについて

会長自ら被災地を何度も訪問され、先頭に立って被災地支援をされていることに心から敬意を表します。一方、フィリップモリス社は、タバコによって毎年世界で600万人、日本で20万人の犠牲者を出しているタバコ産業の筆頭である殺人企業です。タバコによる夥しい犠牲者とそのご家族の無念を思うとき、タバコ会社のCSR活動の資金を受け取ることは、タバコ産業の犯罪的行為に間接的に加担することになると思います。

身寄りをなくされた未成年被災者支援という素晴らしい目的と活動遂行のためにも、その手段と財源を今後はよく検討していただきますようお願い申し上げます。

以上